

270有余年の栽培の歴史をもつ「山内いものこ」。昭和45年、「メの生産調整に伴う転作作物として奨励された「いものこ」は、生産農家・JA行政による三位一体となった弛まぬ努力が山内ブランドを確立し、更に後世に伝える取り組みが行われています。

生産農家・JA・行政が育む「山内いものこ」（山内村）



丹精込めて育てた「山内いものこ」の収穫作業に精を出す生産農家



味覚をそそる「山内いものこ」

受継がれて270有余年
愛されて来た独特の味

県の東南端に位置し、西は横手市、東は早手県境に接し、標高300～900mの山々が大部分を占める急峻な山岳地帯で、村の90%が山林、原野となっている山内村。

この山内村では約270年前（江戸時代享保年間）から「いものこ」栽培が行われ、先人達により受継がれてきま

した。
その独特の粘りと柔らかく、まるやかな味はこの地域、横手・平鹿地方で古くから愛され、秋の味覚として郷土料理の一つである「いものこ汁」に欠かせないものとなっています。

「いものこ」は里芋のこと、食卓上るのは「孫芋」

「いものこ」とは、「里芋」のこと。畑に植えられ、目瞭然、親芋を取り囲むようにくっ付いている子芋、そしてその子芋にくっ付いている孫芋と、親子3代の芋が付いているように見えます。市場に一般的に出回っている里芋は柔らかく粘りがある、美味しい「孫芋」のことを言い、ゆえに私達の口に入る里芋のことを芋の子（いものこ）と区別します。



気象条件・土壌・朝霧が
美味しさを醸し出す

山内村は、河川に沿って耕地が拓げる中山間地域。里芋の栽培に適した適度な日照時間と、高温多湿で寒暖の差が大きいという気象条件、それに良質の土壌が相まって、「山内いものこ」の美味しさを醸し出します。

さらには、奥羽山系の山々を源とする清らかな水と、冷涼な空気が「朝霧」の発生を促し、「この朝霧が、「いものこ」の葉を包み、水滴となって葉の表面を潤し、この作用の繰

り返しが「いものこ」のプリン生成に微妙な影響を与え、独特の「山内いものこ」が形成されるといわれます。

生産農家・JA・行政による三位一体の取り組み

昭和45年コメの生産調整に伴う転作政策を転機に、村ではこれまで受け継がれてきた「いものこ」を村の特産品と位置付け、栽培を奨励し、生産農家と行政が一体となって、国や県などの支援策の導入や栽培技術などの向上に努め、作付けの拡大を推進してきました。

昭和57年には生産農家主体で組織された土淵地区と筏（いかだ）地区のいものこ生産組合を統合、生産量を安定させ、JAとの共販体制を展開したことにより、全体的に知られるとともに、その品質と味に高い評価を受け、「山内いものこ」としてブランドが確立されていったのです。その間、特に県内最大の消費地である秋田市においてのPR活動や「いものこ汁」の試食即売会など、村の特産を売り込むため、生産農家、JA、行政の惜しみない努力が



トラクターによる収穫作業

あったことは言うまでもありません。

山内ブランドを後世に
伝える取り組みを推進

「いものこ」は運作に弱く3年周期くらいで水田に戻さなければなりません。

また、近年生産農家の高齢化や担い手不足などから栽培面積・生産量が減少傾向にあります。

村では、様々な支援策を活用しての機械化の導入を促進して労力の軽減を図るなど、作り手が減っても生産量は維持して行くという取り組みを行っています。

また、これまで種子いもの越冬技術がないため他産地から種子いもを購入せざるを得

なく、この経費が経営を圧迫していました。そこで、県の研究機関であるアキタバイオミックスエリア内にある「遺伝資源開発利用センター」に種子いもの培養研究を委託。平成10年に増殖方法が確立され、同センターから技術提供を受け、生産農家が種子いもの増殖に努力を重ね、培養苗生産を確立しました。

これらの弛まない努力により生産量の減少を抑えることができ、山内ブランドを守っているのです。

村では、これからも、生産農家やJAと連携して、この自然環境、気候風土に育まれ、独特の粘りがあるて柔らかいく美味い「山内いものこ」を後世に伝え、守り育ていく取り組みを推進していくこととしています。

第18回を迎える「いものこまつりin鶴ヶ池」

村では、毎年9月の第3日曜日、「山内いものこ」のPRと消費拡大を図り、村の特産品として地域の活性化に繋げていくためのイベントとして、昭和62年から「いものこまつりin鶴ヶ池」を開催し

ており、今年で第18回を迎えます。

採れたての「山内いものこ」で作った「いものこ汁」の即売や、いものこを積み上げ、高さを競う「全国いものこピラミッド競技大会」、夜には花火大会が行われるなど、お楽しみ企画でいっぱいです。「山内いものこ」が最盛期をむかえるこの時期、「いものこまつりin鶴ヶ池」を堪能して見てはいかがでしょうか。

《お問い合わせ先》* 山内村役場 産業振興課 商工観光係
0182 53 2131

